

MIDORI NO TOHOKU

みどりの東北

No. 82

発行日 ■ 平成23年1月 発行 ■ 東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16 TEL. 018(836)2192

ホームページ ● <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



初冬の鳥海山 (写真提供：庄内森林管理署)

トピック

年頭所感

美しい森林づくり(地域発案システムの取組)

「森吉山周辺の環境保全と森林環境教育の推進」

米代東部森林管理署上小阿仁支署

我が署の隠れた名所

「双竜の滝」

三八上北森林管理署



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。





『「森林・林業再生プラン」 実践で跳躍の年』

東北森林管理局長

矢部 三雄

新しい年の幕開けに当たりご挨拶を申し上げます。

皆様には、常日頃から東北国有林の管理経営に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年は国際森林年です。森林を守

り育てながら、これをいつまでも利用し続けていくことが大切であることを多くの人々に理解していただくための一年とされています。また今年は卯年で跳躍の年と言われています。すので、国際森林年を契機として、我が国の森林、林業政策、国有林野事業も跳躍の年としなければなりません。

跳躍の第一は、「森林・林業再生プラン」の実践です。

再生プランは、政府の新成長戦略の一つの柱として位置づけられ、再生可能な森林資源の持続的活用を通じて地域の活性化、雇用の創出を実現する旗手とされています。昨年11月に、推進本部に設置されている基

本政策検討委員会の最終とりまとめが農林水産大臣に報告され了承されました。今年は、その内容を具体的に実行していく年となります。このような意味で「森林・林業再生プラン元年」ということができます。

東北森林管理局でも、国有林行政を支援できるフォレストターの育成や国有林での森林整備と一体となって効率的な事業実行を実現する共同施業団地の推進など再生プランの実践にむけた活動を展開していくこととしています。

また、再生プランの成否を握る国産材の利用拡大についても、昨年10月に施行された公共木造施設木材利用促進法に沿って、各地方自治体との連携を図り、公共建築物をはじめとして建築分野での木造化を推進していく必要があります。

もう一つの跳躍は、国有林野事業の一般会計化への道筋をつけることです。

国有林野事業については、昨年秋の特別会計事業仕分けにおいて、債務返済を自らの努力で履行することを前提に一般会計化の方向が決定されました。これは、これまで以上に効率的な事業運営と債務返済に向けた経営意識の高い林産物販売努力を求められることを意味しています。

東北森林管理局としては、165万ヘクタールもの広大な国有林を管理経営するという特質を活かし、国有林をリードできる生産性の高い事業の実施、国産材の販路開拓に向けた木材の安定供給に努めていきます。加えて、地域の方々と一緒に木質バイオマスのエネルギー利用も積極的に推進することで森林資源の有効利用を進めていく考えです。

特に、国有林材の販売に当たっては、国有林経営への悪影響を及ぼすことの無いよう、適正な価格で購入いただける生産性の高い需用者への安定供給を進めていくことが重要です。そうでなければ、地域の木材産業は産地間競争に敗れてしまうことが必定と考えます。

再生プランは、これまで以上に経営の概念を前面に押し立てていきますが、国有林、国有林を問わず、戦略をもった林業経営を推進していかねばなりません。

こうした取組を推進していくこと

で、森林の多面的機能の高度発揮を確保し、東北国有林が真に国民の皆様方に貢献していくことが重要と考えています。このためには、職員一人一人が目的意識をもって、国民の皆様の声に耳を傾けて業務に邁進していかなければなりません。これまでに以上に関わられた「国民の森林」としての組織づくりに努力していく覚悟ですので、引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を記念申し上げます。跳躍の年のスタートに当たってのご挨拶とさせていただきます。





『新年ご挨拶』

青森事務所長

井上 達也

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様には、素晴らしい新年を迎えられたことを、お喜び申し上げます。昨年は、前半は景気が持ち直し傾向にあったものの、年後半には足踏み状態で推移、失業率も高い状態が続き、新設住宅着工も数年前の業況にはまだまだのようです。

このような情勢下、政府は、新成長戦略の一つの柱に「森林・林業再生プラン」を位置づけ、木材などの森林資源を最大限活用することを通じ、雇用の増大、木材利用を通じた低炭素社会への構造転換を目指すこととしております。

具体的には、10年後の木材自給率50%以上を目標とし、低コスト路網、作業システムの導入、日本型フォレストの育成、木材利用の拡大、森林計画制度や補助金、予算の見直し等を掲げております。年末に、検討会の最終とりまとめが行われ、具体

化の取り組みが始まりました。

このプランは、これまでに植えてきた森林を効率的に活用し、戦後の拡大造林の成果を木材利用の面から示すものです。環境、国土保全といった森林の公益的機能の高度な発揮以上に、はつきりと目に見える形で貢献と言えるでしょう。その分、収穫材積、収支といった結果が数字で現れるものでもあります。行政、森林所有者、伐採業者、流通業者、製材等加工業者、住宅建設等利用業者、これらが気持ちを一にして取り組むことが不可欠です。

川上から川中までの木材生産・流通の一翼を占める国有林にとって、その役割は大きく、組織、技術力、資源を活用した取り組みを求められております。このため、生産ロットの集中・大型化、簡易で使いやすい路網の整備促進、請負事業体の作業システムの改善による効率化、生産力の増大などについて、プランに

先駆けした実施を目指しています。さらに、民有林との連携による施業団地の形成、木材の安定供給・供給調整、フィールドや技術を活用した人材育成など、民有林におけるプランの円滑な推進を後押しする役割も努めることとしています。

一方、政府の無駄を省く取り組みも本格化し、国有林野事業特別会計についても事業仕分けが行われ、一般会計化の方向が示され、国民負担を増やさない着実な負債返済と、より効率的な事業実行が求められました。今後、早急に具体的内容を検討することが求められているところであります。

日本の森林・林業、国有林は、大きな変革を求められています。目指すものは大きく、求められていることは多岐にわたり、多くの問題を解決していかなくてはならないと思います。そういった中においても、国有林野事業の役割は、木材の安定供給、国土保全等森林の公益的機能の高度発揮、地域振興で、従前どおり変わらないものであり、これらの期待に答えるよう、着実な事業運営を行ってまいります。

昨年は、12月に東北新幹線が青森まで届き、全線開業となりました。1972年の着工、82年の大宮・盛岡間の開業、87年の国鉄改革・分割

民営化を乗り越え、全線が開通し、東北に背骨が通ったように感じております。東京まで最速3時間10分の時代を向かえるとともに、さらに、青函トンネルを経て北海道を結ぼうとしています。人的交流、観光利用の増大といった展開が想定され、これらの地域の活性化に大きく貢献することが期待されています。

人が、強い意思を持ち、英知を集めることによって、必ず事は成せることを示しているようです。そして、今年は、新幹線が東北地方に新しい風を吹き込むことでしよう。

林業界においても、森林・林業再生プランの具体の実施、事業仕分け後の国有林野事業の着実な取り組み、これらの活動が東北地域の森林・林業に新風を吹き込み、地域における森林・林業の再生となることを確信しております。

本年が、森林・林業の再生、国有林野の改革の良いスタートとなるように、職員一丸となつて、しっかりと取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

皆様にとって、本年が素晴らしい年であり、また、ことを折念申し上げ、年頭のご挨拶とします。

美しい もり 森林づくり

(地域発案システムの取組)

森吉山周辺の環境保全と 森林環境教育の推進

米代東部森林管理署上小阿仁支署

上小阿仁支署は、北秋田市の一部と上小阿仁村の国有林野を管理経営しています。北秋田市には花の百名山として広く知られる森吉山があり、登山やスキー、名瀑や溪谷、紅葉や樹氷などを楽しむために多くの方が訪れます。また、上小阿仁村は、天然秋田杉の優良な産地として全国的に著名な地域です。

今回は、北秋田市森吉山と上小阿仁村上大内沢自然観察教育林での取組みを紹介します。

○森吉山高山植物保護啓発活動

近年、登山ブーム等を背景に入山者が増加している中、県立自然公園である森吉山でも一部入山者による貴重な高山植物の踏み荒らしなどが心配されます。

このため、上小阿仁支署では、毎年、森吉山が本格的な登山シーズンを迎える時期に関係機関等と連携して森吉山高山植物保護啓発活動を行っています。

今年度は6月19日(土)に、秋田県自然保護課、北秋田市商工観光課、北秋田警察署森吉幹部交番、森林ボランティア、上小阿仁支署から計21名が参加し、主な入山ルートである旧森吉山スキー場と阿仁スキー場に分かれ、「もりのマナーを守りましょう」等のチラシを配布しながら、マナー向上と高山植物等の保護等と呼びかけました。この活動の様子は地元新聞にも取り上げられました。

美しい高山植物を守るためには、ひとりひとりがマナーを守



ることが大切です。チラシや報道を通じてその意識が広がっていくよう、今後とも活動を継続していきたいと考えています。

○民間団体等との協働による 森吉山麓の環境保全活動

北秋田市商工会の呼びかけに応じて、県、市、地元NPO等とともに森吉山麓の環境保全活動を行うプロジェクトに参画しました。これまでに登山道



の一部の
木道化
(9月)
民有地で
ある旧ノ
口川牧場
でのブナ
植樹と自
然観察ガ
イドツア
ー等(10

月)が実施されました。

また、2月19日(土)には支署主催で森吉山における森林レクリエーションに関する公開討論会を開催する予定です。

○天然秋田スギ林での 森林環境教育

上小阿仁小学校の総合的な学習の時間では、各学年が「村を知る・見



る」をテーマとした郷土学習を進めてきました。その一環として、同小学校の3年生10名が6月16日(水)に上大内沢自然観察教育林を訪れました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、森林官からの説明を受けながら、「森の巨人たち百選」に選ばれたコブ杉をはじめ、村のシンボルである天然秋田スギについて熱心に学習しました。

児童たちは、この後も村の森林について学習を進め、「上小阿仁の森から提案」と題して、11月に開催された上小阿仁子どもサミットでその成果を元気に発表しました。

林木育種の低コスト造林への挑戦

～その2 コンテナを活用した優良品種の短期育苗技術～

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

宮下 智弘、千葉 信隆、山口秀太郎、織部 雄一郎、星 比呂志

マルチキャビティーコンテナによって育成されたコンテナ苗は成長が早いと言われています。事実、コンテナ育苗に全国に先駆けて取り組んでいる宮城県苗組では、通常3年かかる苗木育成期間を、苗畑に播種して育成1年、コンテナでの育成1年での計2年に短縮することに成功しています（写真1）。



写真1 コンテナ苗（2年生）

苗技術によって東北育種場の優良品種を育苗すれば、コンテナに直接播種して1年で山出し苗が育成できる様になると考え、東北育種場と宮城県苗組で2年間の共同研究を行っています。

1年で山出し苗が育成できれば、①コンテナでの生産コストがこれまでの2年に比べて安く済みます。②これまで苗木生産者は数年先の需要を見越して生産を行っていたため廃棄苗木等が生じていましたが、受注生産が可能となるので無駄がでません。③コンテナ苗は軽量で林地での植付け効率が裸苗の倍で、活着率が特に優れ植え付け本数が少なくすむので、植え付け経費を大幅に減らせます。さらに、優良品種の植栽によって、④下刈り回数を大幅に減らせるうえ、⑤1本1本の苗木の品質が高いので、低い植栽密度でも短期に大きな収穫量が期待できます。優良品種のコンテナ苗を1年で山出しできるようになると、低コスト造林に大きく貢献できるのです。

平成22年3月にコンテナへ直接播種し、宮城県苗組の生産者が山出し苗の規格である苗高35cmを目標として育成してきました。東松島市の生産者Aと生産者Bが育成したコンテナ苗の10月における苗高を図に示します。この図から、両親が優良品種であれば苗高が大きく、成長が中庸な品種であれば苗高は小さいことがわかります。すなわち、優良品種を選択してコンテナへ播種することは本研究の目的達成に向け重要であることがわかり

ます。

一方、宮城県の精英樹採種園産種子の成績も優れていました。これは、事業レベルで生産している種子は、採種木の光環境や栄養条件が剪定・

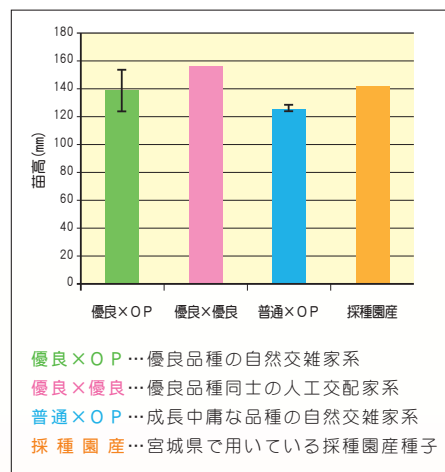


図 コンテナ苗の苗高（10月）

施肥等により良好に保たれていることにより、高品質であるためと考えられます。すなわち、品種の選択だけでなく、高品質な種子となるよう母樹の管理も重要と言えます。



写真2 生産者Aのコンテナ苗
苗高23cm。根鉢は崩れない。

12月中旬に生産者Aが育成したコンテナ苗（写真2）を引き抜いてみると根系の発達が良

く、根鉢が崩れないことを確認しました。また、この時の最大個体の苗高は生産者Aが29cm、生産者Bが33cmと、このペースで成長すれば平成23年6月には大半の苗木が山出しできる見込みで、播種から15カ月で山出しという東北最短記録が作れそうです。コンテナへのスギ種子の直接播種による育苗という、事実上日本で初めての試みで技術的にも未知の領域でしたが、1年での山出しまであと数ヶ月と迫ることが出来たので、1年目の成果としては成功を収めたと考えています。また、この1年を通して多くの知見や改良すべき点も見えてきました。これらを生かしつつ、直接播種による1年での山出しのための育苗技術の開発に引き続き取り組んでいきたいと考えています。



イベント情報

「森を歩く」

EVENT

～2011年は国際森林年です!～

2011年（平成23年）は、国連が定めた国際森林年（the International Year of Forests）です。国際森林年は、世界中の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めることを目的としています。我が国でも、国際森林年という節目の年に、現在取り組んでいる森林・林業再生や「美しい森林づくり推進国民運動」、途上国の森林保全等に対する国民の理解の促進につなげていくことを目的に、様々な活動を予定しています。

そこで、東北森林管理局では、東北の豊かな森林を守り育てていくこと、また、そのために国民一人一人が具体的に行動することが重要であることについて、一人でも多くの地域の方々に理解を深めていただき、東北の森林・林業の再生につなげていくことを目的として、関係機関とも連携しながら、情報発信やイベント（別表）の開催などを積極的に進めていきます。

先般、我が国の国際森林年のテーマが「森を歩く」に決まりました。この機会に、次世代を担う若者・子どもや森林に馴染みのない方など全ての国民の方に、「森を歩く」ことをきっかけに、森のありのままの姿を肌で感じ取っていただきたい、そして、森林づくりの作業を体験する、国産材を使う、山村の方々の話を聞くことなどにより、森との絆を深めていただきたいという思いが、このテーマに込められています。

地域の皆様におかれましては、本取組に対するご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

別表 東北森林管理局管内国有林等で予定されているイベント

開催時期	名 称	概 要	開催地等	主 催 者
4月16日 4月23日	金華山グリーンプロジェクト	石巻市金華山において、松くい虫やシカ等による被害跡地への植樹	宮城県石巻市	株式会社潮プランニング
4月	春期緑の募金	緑の募金活動の実施	管内各県	管内各県緑化推進委員会等
5月	森林の市	春期「緑の募金」活動と併せ、木工体験や木材、山菜等の販売等を実施	秋田県秋田市	東北森林管理局
5月	未定	一般市民参加(高校生中心)による森林環境整備事業の実施	岩手県久慈市	久慈支署
5月	未定	一般市民参加による森林環境整備事業の実施	岩手県遠野市	遠野市、遠野支署
5月	鹿角市植樹祭	鹿角市内の小中学校児童生徒、自治会等による植樹	秋田県鹿角市	鹿角市緑化推進委員会 鹿角市 米代東部森林管理署
6月	「守ろう地球のたからもの」国際森林年植樹祭	白神山地周辺において、企業、森林ボランティアによる森林整備(植樹祭)の実施	津軽森林管理署管内	日本ユネスコ協会
6月	2011森林の恵み環境祭	地域住民を対象とした木工体験や木材、山菜等の販売	青森県十和田市	三八上北森林管理署
6月	未定	岩手・宮城内陸地震で崩壊した林地を治山工事により復旧した箇所に地元の樹木による植樹を実施	宮城県栗原市	NPO法人森林との共生を考える会
6月	米代川上中流域植樹祭及び治山工事見学会	小学校児童、地元住民等による植樹活動及び治山工事の現地見学	米代東部森林管理署管内	岩手県米代川漁業協同組合 秋田県米代川流域3漁業協同組合 岩手北部森林管理署 米代東部森林管理署
6月	植樹祭	分取造林箇所での植樹祭の開催	山形県山辺町	ニッセイ緑の財団 山形森林管理署
7月	未定	一般市民参加型の森林整備(育樹祭)の実施	下北森林管理署管内	下北森林管理署
9月	白神山地を考える旬間	白神山地シンポジウム、白神講座、世界遺産地域合同パトロールの実施	青森県、秋田県	東北森林管理局
9月	育樹祭	関係者による育樹作業の実施	青森森林管理署管内	青森森林管理署
10月	未定	久慈管内の小学生を対象に行われる久慈地方木工工作コンクールの実施	岩手県久慈市	NPO法人久慈地方木材青年会議
10月	大湯小学校森林体験学習	小学校児童を対象にした、森林環境教育、森林体験活動	秋田県鹿角市	鹿角市立大湯小学校 米代東部森林管理署
10月	未定	一般市民参加による森林環境整備事業の実施	秋田県能代市	米代西部森林管理署
10月	「ヤマメの森」植樹	ヤマメ、イワナの住みよい環境をつくるため、雄勝漁協を主体に県、自治体、小学校、住民の参加による広葉樹の植樹	秋田県湯沢市	雄勝漁業協同組合
10月	森林づくりの集い	由利本荘市、ボランティア等と連携したクロマツの植栽や、既に生育しているクロマツ林の除伐等の実施	秋田県由利本荘市	由利森林管理署
10月	植樹祭	生活環境保全林整備事業による植樹祭の開催	山形県山形市	山形森林管理署
11月	治山の森見学会	一般市民を対象に「治山の森」を活用した治山施設等の見学会及び森林教室の開催	宮城県仙台市	仙台森林管理署
12月	森林教室	仙台森林管理署管内の希望がある小学校に対し、職員による森林教室の開催	仙台森林管理署管内 小学校	仙台森林管理署

注：平成23年1月1日現在の予定であり、開催時期、概要等変更になる場合があります。



2011・国際森林年

※ 国際森林年のロゴマーク

ロゴマークは「Forests for People（人々のための森林）」というテーマを伝えるもので、世界の森林の持続可能な経営、保全等における人間の中心的役割をたたえるものです。人々の居住環境や食料・水等の供給、生物多様性保全、気候変動緩和といった森林の多面的機能が人類の生存に欠かせないものであることを訴えるデザインとなっています。

(参考) 国際的なスケジュール

- (1) 2010年12月に石川県で行われた国際生物多様性年クロージングイベントの際、国際森林年とのブリッジングセレモニーを実施。
- (2) 第9回国連森林フォーラム（UNFF）会合（国連本部、2011年1月～2月開催）の際、国際森林年を公式に立ち上げ。
- (3) 第66回国連総会（2011年9月開催）において、一日のみの特別ハイレベル・イベントを開催。

※ 国際的なイベント情報、全国各地で行われるイベント情報、各種参考資料等をご覧になりたい方は林野庁国際森林年ホームページ（<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/2011iyf.html>）をご覧ください。

ミニコラム



へえ～
そうなんだ

アカマツ・クロマツ・ ハイマツ・キタゴヨウマツ(マツ科)

岩手北部森林管理署技術専門官

松 尾 亨



↑アカマツ新芽



↑クロマツ新芽

年始めのお話しに、お正月玄関先で活躍したマツ科マツ属の中から東北で見かける4種類を紹介します。

門松（松飾り）を玄関に飾る風習は、木の梢に神が宿ると考え「年神を家に迎え入れるための依り代」との意味からで、平安時代が始まりだそうです。

さて、マツには二葉と五葉の2つのタイプがありますが、よく見かけるアカマツ・クロマツが二葉です。見分け方は、新芽の色が赤茶色で葉先が柔らかいのがアカマツで、別名雌松と言われます。一方、新芽が白く葉先が尖って固いのがクロマツで雄松とも言われ、成長すると種皮の色でもわかります。

五葉のハイマツは、高山帯に這うように生えることが由来ですがマツの種子としては珍しく、種に翼がなくホシガラスなどの鳥に散布してもらいます。キタゴヨウマツは、尾根筋の岩場に生え、30m以上の大木になります。この種子には大きな翼があります。

マツの名前の由来はいくつかありますが、昔から待ち合わせの場所にしたことから「待つ」または、開花から結実まで2年かかることから「待つ」などの説があります。これら

マツ属の仲間は、他の樹木が生育しにくい岩場や高山帯、海岸線など過酷な条件下でがんばっています。風雪に耐えた老松の美しさは、しっかりとした根の太さがあること、ことしは私も根を太くしたいものと考えた年明けでした。

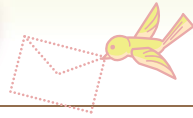


↑早池峰山頂のハイマツ



↑キタゴヨウの葉と球果

モニター便り



森の贈り物

仙台市

鈴木由美

「仙台森林管理署」。近くで見掛けるこの看板になぜかしら心惹かれて以前からずっと気になっていました。市の中心部からほど近いこの場所で、森林に関するどんな活動が行われているのでしょうか。

我が家には小さな子供が二人います。縁あって杜の都に暮らし十数年。子供には身近な自然に親しんでのびのびと育てほしいと願い、折に触れ戸外に連れ出してきました。私自身、山歩きや溪流釣りの好きな祖父に連れられ野山を歩いた幼い日の記憶が何よりの宝物ですから、子供にも同じように自然の中での楽しい思い出を数多く残してあげたいと思うのです。

ところが最近、野生動物による被害の増加や対策活動のための人材不足や高齢化といった森林にまつわる困ったニュースが目につきます。また身近なところでも毎年子供たちが楽しみにしている栗拾いが、老木化や猛暑による不作が原因で体験できない事がありました。山の環境の変化に気付かずにはいられない出来事です。そこで山の現状を学び将来に向けてできることを考えたい、そんな思いから国有林モニターに応募することにしました。

モニターには毎月広報誌が送られてきます。そこには長期的な事業計画の数々や整備の取り組み、子供たちへの指導等の様々な活動が紹介されており、現状をととてもよく理解することができます。そして読む度に、森林を扱うスケールとは対照的に、取り組み作業の地道さ、携わる大勢の方々の尽力に感銘を覚えます。

さらに、この秋には現地見学会というまたとない学習の機会を頂きました。白神山地ではブナの原生林の美しさに息を呑み、他方で心無い人が付けた樹皮の傷跡が20年経つ今もなおくっきりと残る



様子に胸が痛みます。パトロールの方に維持管理のご苦勞を伺って世界遺産として正しく守り伝えていく意義も学びました。また仙台市近郊における治山の森見学会では市街地との隣接地ならではの人と自然が共生するためのあり方を目の当たりにすることができました。そしてうれしいことに、この日、連れて行った子供たちに思いがけず山からの素敵な贈り物があつたのです。天然のいが栗に入った二粒の栗の実。ポケットに入れて大切に持ち帰り夕食のご飯にのった栗の実は子供たちに自然の恵みを強く印象付けてくれました。

早いもので任期終了まであと僅かですが、モニターでの貴重な経験を活かしてこれからも森林を身近で見守っていきたいと思います。

平成23年度国有林モニターを募集しています。

東北森林管理局では、国有林の役割や現状をご理解していただき、国有林の管理・経営に国民の皆様の声を役立てていくため、毎年度、東北森林管理局の管轄地域である青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県に在住する方から「国有林モニター」を募集しています。

○ 募集人員：数十名

○ 募集期間：平成23年1月4日（火）から1月31日（月）まで

募集資格、応募方法など詳しくは電話にてお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

電話 018-836-2274 ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>

国有林モニター担当：企画調整室企画調整係

大 自然と共に 時を刻む街より

由利森林管理署
本荘森林事務所

田 中 宏 明

私が勤務している本荘森林事務所は、秋田県南西部にある由利本荘市の国道7号線沿いにあり、由利森林管理署庁舎1階の1室が事務所となっています。私は昨年の8月からここに勤務しています。

由利本荘市は、南には秀麗・雄大な山容を誇る鳥海山、東には八塩山、西は美しい日本海に囲まれ、鳥海山を源流とする子吉川が市内を縦断するなど、この大自然と共に時を刻んでいるような街です。また、市内には由利本荘の歴史（本荘城跡地の本丸の館、県の重要文化財永泉寺、日本三大長谷観音の一つ赤田の大仏）を語り継ぐ観光スポット、鳥海の本海番楽・猿倉人形芝居・赤田大仏祭りなどの民俗芸能、鳥海国定公園を中心にした大自然を満喫できるパノラマ温泉等があり、アウトドアレジャー、歴史探訪等も楽しめる大変魅力的な街です。本市出身である女優の加藤夏希さんが観光大使としてPR活動をしている街でもありますので、皆さんも大自然等を満喫しに訪れてみてはいかがでしょうか。

さて、本荘森林事務所は、日本海沿岸地域のクロマツ海岸林、丘陵地域のスギ人工林を中心とした約4,480haの国有林を管轄しており、主な業務としては、生産・造林請負、林道改良工事の監督、林野巡視、ナラ枯れ被害木・松くい被害木調査、植樹イベント等を主として行っています。

部内は、思っていた以上にスギ人工林が多く、森林整備事業が盛んに行われ間伐等が進んでいます。また、天然スギが一部残っており、その中の「法内の八本杉」は樹齢500年以上といわれ、樹高が42m、根元の周囲が11.6mもあり、国有林では屋久島の縄文杉に次いで大きなもので、「森の巨人100選」にも選ばれています。



「法内の八本杉」

日本海沿岸地域の約400haのクロマツ海岸林は飛砂防備保安林に指定されており、地域社会を守る森林として重要な役割が期待されています。しかし、昭和58年以降の松くい虫や平成10年の豪雪によって甚大な被害を受けました。現在、治山事業による防災林造成事業を行っているほか、地域の方々と協力して森林再生を図っているところです。

今年度は、10月29日に「森林づくりの集い」と称して由利本荘市をはじめ、各ボランティア団体、岩谷小学校の児童に植樹をしていただきました。私はクロマツを植えるのが初めてでしたが何とか実演を成功させ、その後、小学生の子ども達と一緒に植樹をし、思い出と満足感を得ることができとても良かったと思います。

森林官業務は沢山あり、私一人では何もできないので、引き続き、職員はもちろんのこと地域住民の皆さんをはじめ自治体や関係団体からのご協力をいただきながら、森林を守る取り組みや国有林の保全に微力ながら努めています。



岩谷小学校児童による植樹



八塩山山頂より遠望

我が署の隠れた名所

三八上北森林管理署

双竜の滝



十和田市の中心街から西方におよそ 30km、奥入瀬溪流に注ぎ込む養老沢との合流付近に雲井の滝があり、その滝の上流に双竜の滝があります。

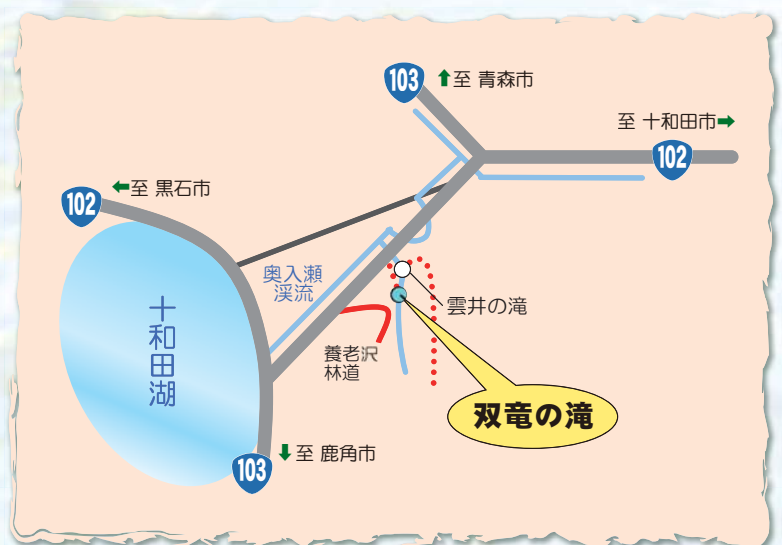
多くの観光客が訪れる雲井の滝を右手に見ながら急な斜面を登り、その後はほぼ等高線に沿って進むと、柱状節理の岩肌の上から二筋に流れ落ちる滝が現れてきます。

この滝の高さは、目測でおよそ 30m、滝壺がなく、近寄ると滝の水しぶきが飛んできてカメラのレンズを曇らせます。

観光名所奥入瀬溪流沿いにあるものの、一寸した登山の準備が必要なため訪れる人のあまり多くない場所です。

交通
アクセス

国道 102 号線の奥入瀬溪流沿いにあるバス停「雲井の滝」から徒歩およそ 15 分。



お問い合わせ先

〒034-0082 青森県十和田市西二番町1-27

電話番号：0176-23-3551、050-3160-5890 FAX：0176-24-2020